

2025 年台湾部会認証式 参加報告

2025 年度 ICD Section XII 台湾部会認証式参加の御報告をさせていただきます。JICD からの参加者は、富士谷盛興会長をはじめ鈴木佳弘副会長御夫妻、小野清一郎常任理事、歌橋麗華理事、森永宏喜理事、中根晶フェロー、そして秋山逸馬国際交流委員会副委員長の 7 名が参加しました。現地では 10 月 18 日（土）にウェルカムパーティー、19 日（日）にエキスカレーション及び認証式がハワードプラザホテル台北（台北福華大飯店）にて執り行われました。

10 月 18 日（土）

現在、日本から台湾への窓口は「松山空港」と「桃園空港」に開かれています。新嘉坡からは桃園空港のみに限られているため桃園空港に早朝に到着しました。空港線に乗って (fig1) 7 時前には台北駅に着き、駅周辺で朝食を取ってホテルへ向かいました。少し休憩した後に「如何にウェルカムパーティーまでを過ごそうか」と考えたところ、自宅の茶筒（茶葉を休める容器）が不十分であった事と陶磁博物館がある事を思い出したため「鶯歌」へ向かいました。鶯歌は台鐵（TRA）で 40 分程度の郊外の焼き物の街です (fig2)。ただこの日は雲一つ無く、気温も 37 度を超えていたために体力的にも余り多くの窯元を観られず幾つか陶磁器を購入し、ウェルカムパーティーに備えて台北に戻りました。ウェルカムパーティーは昨年と同様に「Courtyard By Marriott Downtown」にて行われました。コートヤードマリオットは台北に 2 つあり、場所を間違えるタクシーがあった為に昨年は開始時間が遅れた経緯がありました。このことを踏まえて、予め TICD が会長及び国際会長の宿泊ホテルより送迎を出す配慮を頂いたので定刻通りに Dr. Ian Doyle 国際会長御夫妻、Dr. Yueh-Chao Yang TICD 会長、Dr. Kung-Rok Kwon KICD 会長および富士谷盛興 JICD 会長が着席し、会は善く行われ、各部会の近況や話題諸々を話して互いの交流を深められました (fig3)。



Fig1. 淡水河からの台北市



Fig2. 職人の多い鶯歌には多くの檳榔屋



Fig3. 和やかなウェルカムパーティー

10月19日（日）

前日の晴れとは対照的にこの日は早朝から激しい雨でした。今年のエクスカーションについて TICD 連絡役としても余り説明を受けておらず、前日の会食では「天気予報では雨との予報なので博物院に案内する」旨伝えられましたが、当日は Dr Yang TICD 会長自らの案内で「国立故宮博物院」に行きました(fig4)。私自身も何度か故宮博物院へ来館していますが青銅器の「毛公鼎」や象牙の透かし彫りである「雲竜文套球」など精密な細工、「翠玉白菜」などの稀な素材による作品は何度観ても感心させられます。

エクスカーションの後、各自ホテルで休憩を取り 2025 年台湾部会認証式は 17 時から「Howard Plaza Hotel (福華大飯店)」にて執り行われました(fig5)。今年の台湾部会のニューフェローは5名でしたが、10月には台湾の祝日含む大型連休が第一週、第二週および第四週にあったため長期の休暇を取るフェローも多く、会場で認証を受けたのは2名でした。認証式始めに Dr. Ian Doyle 国際会長より動画と共に祝辞があり(fig6)、その中で「ICD は卓越した専門的業績と顕著な功績を称え、人道的・教育的取り組みを推進する榮譽ある国際的な協会である。」とあり、改めて ICD 会員である事や国際交流委員であることを考えさせられました(fig7~9)。台湾部会との連絡役を拝命し、TICD の先生方と話している中で、現在台湾では東欧で学位を取得した台湾人歯科医師が増えており、従来からの「台湾歯科界」と軋轢が生じている事や TICD の会員不足などの諸問題も聴くようになりました。しかし幾つかの問題は JICD にも当てはまる課題であり、国内の時流だけに限らず国際的・社会状況に応じた変化をしていくことが JICD としても、そして歯科医師個人としても必要と強く感じられました。日本には台湾や韓国からも歯学部生（海外留学生）や既に歯医師免許を得た韓国人・台湾人の歯科医師が診療をしており、彼らは母国で診療することを望んでいることもあります。このような需要があるならば海外留学生を冬季学会に招待するのみに留まらず、各部会との連携をとって情報共有する等を検討するのも一計かと思いました。さらに ICD は、「国際的な協会」であるので、国内外に留まらずに学術的にも地域活動等も含めた社会貢献を広く発信していくのも歯学部生や若い歯科医師にとっては良い機会になると思っています。祝賀会自体は例年通り、北京ダック(fig10)により食事が始まり歓談が至る所で行われました。また、生バンドによる演奏も佳境になると「生カラオケ大会」の様相になり英語の曲の演奏では Dr. Ian Doyle 国際会長もマイクを持ち(fig11)2曲も熱唱する盛況な祝賀会でした。



Fig 4. 国立故宫博物院



Fig 7. 2025 年 TICD 認證式



Fig 5. TICD 会長



Fig 8. JICD 会長



Fig 6. 國際会長



Fig 9. KICD 会長



Fig 10. パリパリの北京ダック



Fig 11. 国際会長もノリノリ

10月20日（月）

この日、南アジアでは「Deepavali」というヒンズー教の祝日であった為、夕方まで台北の市内観光をしようと考えていましたが昨日同様に雨であったため、馴染みの茶行（お茶屋）に行き、今年の台湾茶を幾つか購入した後に足裏マッサージのみを行い、空港へ向うことにしました。空港に着くと風速は8mを超え(fig12)、雨は横殴りになっており、カウンターでも少し遅れる旨の情報を得ました。他方、鈴木副会長御夫妻と歌橋フェローは台南での観光を愉しんでいると聞き、同行したかったと思いました。結果として私の搭乗するフライト自体は、1時間半遅れての帰国となりました。私にとって「台湾」は、台湾茶・中国茶を毎年購入する習慣から慣れ親しんだ地ですが、ICDの交流を通じて台湾の人や性格、台湾の素晴らしいモノを更に見つける機会と捉えています。恐らく交際交流委員でなくとも、参加すれば新しい「台湾」や「台湾人歯科医師が感じている状況の一面」が見えてくるので、是非機会をみて参加して頂ける事を願っています。因みに今年の台湾茶は「蜜香紅茶」と「阿里山鉄観音」が好い出来でした。



Fig 12. 暴風雨の桃園空港

(秋山逸馬 記)

去る 10 月 19 日（日）に台湾部会の総会・認証式が開催されました。私はその前日 18 日（土）に開催された前夜祭から参加して参りました。

前夜祭は昨年同様、マリオット系のコートヤードホテルでの晚餐でした。日本の中華料理とは全く異なる本場の台湾料理に参加者一同舌鼓を打ちつつ、楽しい夜は更けていくのでした。なお、私が最も美味と感じたのは鱸（スズキ）の蒸し煮でした。生憎食べるのに夢中で写真を撮るのを忘れてしまいました。この味は是非とも日本のフェローの皆さんにも味わって欲しいと感じた一品でした。

翌日は生憎雨模様でしたが、台湾故宮博物院の見学にて天候に関わらず中国 4000 年の歴史を堪能することができました。博物院内のレストランにて昼食会となり、食後はチャーターされたバスにてホテルへ。いよいよ夕刻からは認証式です。

今年の台湾部会のニューフェローは 2 名のみの参加であり、少々寂しい印象を受けましたが、懇親会そのものは例年どおりの大盛り上がりへと発展し、生バンドによるカラオケ大会で宴は最高潮に達しました。翌週には任期を満了する予定のイアン・ドイル国際会長が自らステージに上がり、熱唱を披露するなど、昨年にも増してカラオケに参加するフェローが多くなり、歌が国境を超えて親睦を深める効果に改めて感心いたしました。こうして台湾部会の認証式は無事に終わり、来年の再会をフェローの皆さんと約束して参りました。

(小野清一郎 記)

10月19日に開催されました、国際歯科学士会台湾部会の認証式に参加をさせていただきました。皆様の勧めもあり、前日18日のウェルカムパーティーから参加を致しました。

ウェルカムパーティーには、台湾部会のフェローだけではなく、イアン・ドイル国際会長、韓国部会のフェローの方々も参加をされていました。そのため、英語のみではなく、中国語、韓国語、そして日本語が飛び交う会話がなされており、国際学会に参加をしているという気分にもなれました。また、食事は日本では味わうことのないような台湾料理でありましたが、大変美味しかったことを記憶しています。

認証式当日の午前中は、台湾故宮博物院の見学でした。日本の博物館と異なり、所狭しと様々な展示物が展覧されているようにも感じましたが、大変興味深い展示物もあり、あっという間に時間が過ぎてしまった印象でした。夜は、認証式と懇親会でした。認証式は日本とは異なりコンパクトであり、且つ、厳粛なものでありながらもアットホームな感じを受けました。事業運営委員会（総会・認証式）の一人として、他部会の認証式に参加するのも、良いことだなと感じました。また、懇親会は盛大な盛り上がりを見せていました。昨日と異なる美味しさの台湾料理を堪能させていただきました。

最後になりますが、富士谷盛興会長、鈴木佳弘副会長御夫妻、小野清一郎常任理事、歌橋麗華理事、森永宏喜理事、そして秋山逸馬国際交流委員会副委員長には、大変御世話になりました事、深く御礼申し上げます。

（中根 晶 記）

2025年10月19日 ICD 台湾認証式に日本部会から来賓として参加させていただきました。認証式に関するレポートは他の先生方からのレポートもあり、私からの報告は割愛させていただきます。

今後、ICD 日本部会が台湾・韓国・フィリピン部会との国際的交流をより活発に進めていくうえで、今回は台南地方に認証式後エクスカージョン（個人的）をしました。その報告をいたします。台湾認証式の翌日、10月20日（月曜日）台湾に詳しい歌橋麗華先生と我々夫妻と3名で遂行いたしました。

早朝 7 時 51 分発の台湾高速鉄道（メイドインジャパン）に乗り台南に出発、乗り心地は、言うまでもなく日本の新幹線と同じです。（台北→桃園→台中→台南→高雄）

台南駅に到着後、チャーター車両に乗り台南観光いたしました。

*奇美博物館（歐洲風格大型博物館）の見学

許文龍（ABS 樹脂で有名な奇美実業）創設 個人所有の博物館で、特に創設者が愛好家でもある、バイオリンコレクションは圧巻でした。また、後述しますが奇美事業はバイオリン演奏者のスポンサーにもなっています。

*赤崁樓（台南を代表する歴史的建築物）

*神農街 & 正興街（台南のレトロな路地）

*安平樹屋（ガジュマルの木が廃墟を覆いつくす）

*四草綠色隧道（緑が生い茂った自然のトンネルをくぐり抜けなら進むクルージング：ガイドさんが面白くしゃべるので、TDL のジャングルクルーズと同じ感じ）

昼食と夕食は台南料理を堪能させていただきました。

夕食では台南在住の日本人指揮者の徳岡直樹夫妻と一緒に食事をいたしました。徳岡氏は現在 5 つのオーケストラを指揮し、YouTube チャンネル

[https://www.bing.com/ck/a?!&&p=8e162710195530c99b5d78a8f17e424b026fad9d721e3fccac6dd16c30949b42JmltdHM9MTc2MzE2NDgwMA&ptn=3&ver=2&hsh=4&fclid=36108b3b-e21c-6c53-050c-](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=8e162710195530c99b5d78a8f17e424b026fad9d721e3fccac6dd16c30949b42JmltdHM9MTc2MzE2NDgwMA&ptn=3&ver=2&hsh=4&fclid=36108b3b-e21c-6c53-050c-99efe3ce6d81&u=a1aHR0cHM6Ly93d3cueW91dHVIZS5jb20vQGf0bS1uYW9raW11c2lj&ntb=1)

[99efe3ce6d81&u=a1aHR0cHM6Ly93d3cueW91dHVIZS5jb20vQGf0bS1uYW9raW11c2lj&ntb=1](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=8e162710195530c99b5d78a8f17e424b026fad9d721e3fccac6dd16c30949b42JmltdHM9MTc2MzE2NDgwMA&ptn=3&ver=2&hsh=4&fclid=36108b3b-e21c-6c53-050c-99efe3ce6d81&u=a1aHR0cHM6Ly93d3cueW91dHVIZS5jb20vQGf0bS1uYW9raW11c2lj&ntb=1)

）で独特な世界観からクラシック音楽の解説をされています。日本に戻ってから YouTube チャンネルの案内を見てみましたがとてもマニアックで面白いですよ。また、徳岡氏最愛の奥様が、先述した奇美事業からスポンサーを受けているバイオリン奏者でありました。（奥様はとてもチャーミングで、徳岡氏がヨーロッパ滞在中に、留学中の奥様に一目惚れし、猛アタックの甲斐あってゲットしたとご本人が嬉しそうに話してくれました。）美味しい食事と、楽しいお話を聞かせていただきとても幸せ

な時間を過ごせました。楽しい時間があっという間に過ぎさり、帰りの新幹線では爆睡の中台北駅に戻ってきました。

この経験を踏まえて、次年度の台湾部会認証式では、エクスカージョンの企画も考えていきます、より多くの日本部会フェロー方々が国際交流できるように考えていきます。



奇美博物館



四草綠色隧道



徳岡直樹夫妻



安平樹屋

(鈴村 佳弘 記)